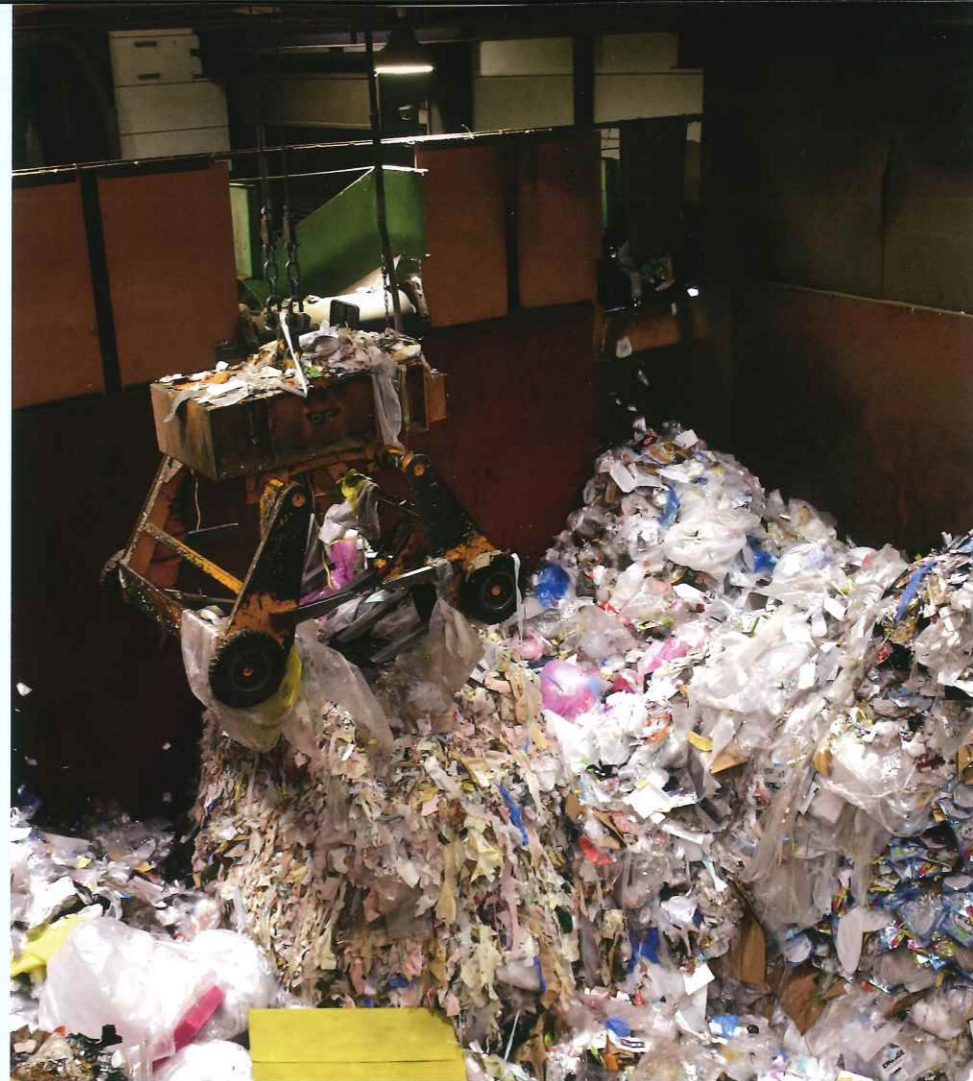


「ごみが活きカエル」——株式会社タズミ——

代表取締役 田墨 幸一郎氏



「ごみが活きカエル」。これがタズミの基本理念の一つだ。株式会社タズミは1965年に横浜で創業し、現在は綾瀬、海老名に事業所を構え、ごみのリサイクル事業に取り組んでいる。

タズミでは20年前から、焼却処分されていたゴミを何とか有効活用したいという想いで、廃棄物をRPFと呼ばれる固形燃料へと再生する循環システムを積極的に導入してきた。RPFとは、主に産業系廃棄物の内、マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料だ。これにより従来の石炭ならば15%だった灰化率が5%まで削減され、CO₂の排出量も少なくなった。

このRPFは、大手製紙工場へ出荷され発電ボイラー用燃料として再利用されている。製紙工場は主に化石燃料を使用しているが、RPFのコストは石炭の3分の1、重油では10分の1程



度だ。まさに都市から発生するごみは都市鉱山ならぬ都市油田といえる。

今回取材で訪れたのは、2005年より稼働を開始した最新の設備を備えるプラターン海老名工場だ。取材時も次々と廃棄物を運搬する車両が出入りしていた。



ごみは大規模な集積スペースへ降ろされ、その後、機械選別、細破砕、減容固化、冷却・保管という工程を経て最終的にRPFへと製品化される。その殆どが自動化されているが、最終的に異物混入をチェックする工程は人の目が頼りだ。分別の精度を高めることにより高品位なRPFが製造される。

プラターン海老名工場では、選別ラインを備え一貫生産・処理が可能な施設とすることで、狭い敷地の中でもラインを工夫することにより高効率の処理を実現している。更に大規模な製品積込装置が設置され、20トントレーラーに短時間で満載することが可能となっている。

最後に、取材で感心させられたのはそこに働く従業員の方々の礼儀正しさだ。工場を見学中、進んで向こうから

「こんにちは！」と元気良く挨拶され、こちらが恐縮してしまっほどだ。

基本理念の一つに「あなたの気持ちをかんがエル」がある。個性人格を尊重し、互いに立て合い助け合うという社風が浸透しているのだと感じた。「ごみが活きカエル」その背景には、人も活かしてこそ、なのだ、と田墨社長の人となり垣間見た。

株式会社タズミ

- 本社 / 吉岡リサイクルセンター
〒252-1124 綾瀬市吉岡709
TEL 0467-77-1847
- プラターン海老名工場
〒243-0434 海老名市上郷4-2-8
TEL 046-292-2251
- 早川RPF工場
〒252-1123 綾瀬市早川2647-35
TEL 0467-71-3792
- 早川第2工場
〒252-1123 綾瀬市早川2647-32
TEL 0467-53-8907

